

## サガリバナー優美ではかなげ



沖縄石垣島に高校同窓のN君が住み着いて14年、八重山諸島のマメ科植物の研究を地道に続け、一昨年その成果をまとめて、「八重山の豆蔵（まめぐら）」という写真図鑑を出版した。

そのN君を頼って、6月下旬13人の山仲間と同島を訪れ、山登りと観光を楽しんだ。

### 於茂登岳、野底岳に登る

山は「新・日本百名山」に名を列ねた於茂登（おもと）岳で亜熱帯密林の蒸し暑さを体感、野底（のそこ）岳では岩峰からの好展望を堪能した。

また八重山諸島の植生には目を奪われ続けた。なかでも、夜と早朝に訪れた自生地でのサガリバナは圧巻だった。

### 夜に咲くサガリバナ

サガリバナ（下がり花）サガリバナ科サガリバナ属。日本では奄美大島以南の湿地帯に自生する常緑中低木。長い（50～70 cm）花序を垂らし、横向きの花を次々と多数咲か

せる。花の色は白またはピンクで、刷毛状に3～4 cmの雄しべが多数突き出て、華やか。夜になると咲きはじめ、明け方には散ってしまうが、甘い香りを放って蛾その他の虫を呼び寄せて、受粉を手伝わせる。散り落ちた花が水面に浮いているのも見応えがあり、川面を染めて流れるのを見るツアーもあると言う。



↓ユウナ

### 原色鮮やか 沖縄の花々

山にも町にも花があふれていた。ハイビスカス、ブーゲンビリア、デイゴ、オオバナアリアケカズラ、ユウナ（オオハマボウ）、サンダンカ、ゲットウ等々、原色豊かな花々が咲き誇っていた。西表島で見たマングローブの林も、強く印象に残った。





続・二上山に咲く花々 27

**ヒメハギ (姫萩)** ヒメハギ科ヒメハギ属 写真は澤木仁さん

花期は4~7月。この頃山道を歩いていて、この花を見つけると「こんなところにも咲いていたのか」と呼びかけたくくなります。日当たりのよい階段の隙間とか尾根道の傍にひっそりと咲きます。萩の花に似た小さな花を咲かせるのでこの名に。細く固い茎が地面を這うように広がって花を着けますが、花は5~7ミリと小さく、紅紫色で可愛らしい。下の花弁の先が房状になるのが特徴です。



続・二上山に咲く花々 28

**オオチャルメルソウ (大哨唢草)**

ユキノシタ科チャルメルソウ属 写真は澤木仁さん

写真の花の形が面白いでしょう。果実も面白く、その形が楽器のチャルメラ(チャルメルとも)に似ているからこの名に。谷筋の登山道の湿った所に自生していて、花期は4~6月。

チャルメラと言えば屋台のラーメン屋さんが、客寄せに吹いていたのを、そのメロディーと共に思い出します。「哨唢」はもともと中国の楽器ですが、江戸時代、長崎に来たポルトガル人が中華街で使われていたこの楽器を、自国の楽器「チャルメラ」に似るので、そう呼んだことに由来する言葉だそうです。

それにしてもとても読めませんね。



続・二上山に咲く花々 29

**ウラシマソウ (浦島草)**

サトイモ科テンナンショウ属 写真は澤木仁さん

写真で長いひものような物がありますが、これは花の一部で「付属体」と呼ばれています。これを浦島太郎の釣り糸に見立てての命名です。中央の太い柱のようなのが花ですが、花弁は無く、濃紫色の覆い(仏炎苞)に包まれています。

林下で自生し4~5月頃花が咲きますが、小さい個体は雄花を咲かせ、力がつくと雌花を咲かせる、いわゆる性転換をすることで有名です。(性転換はテンナンショウ属に共通)

